第2回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西　浩明

◇日時　　2023 年 6 月 27 日（火）19 時～20 時 30 分
◇方法　　Zoom によるオンライン方式
◇参加者　21 名

◇実践報告　　愛媛県新居浜市立別子中学校教諭　池田光希先生
　　全学年 総合的な学習の時間
　　「共に野菜をつくることで共に未来をつくる　　地域協働型農業『別子ファーム』」

【実践概要】

○授業のねらい

地域の方から農地を借用し、生徒と地域の方が協働して野菜の栽培から収穫までを行う
全校生徒 19 名　平成 28 年よりグローバル・ジュニアハイスクール
　校区外からも生徒募集　「立志寮」で寄宿舎生活
「18 歳意識調査」（日本財団）から…自己肯定感が低い、社会への当事者意識が低い
学びの土壌づくり　→　素敵な大人と出会う・関わる

○実践の内容

「別子ファーム」誕生のきっかけ
　「もっと地域とつながっていきたい」「地域の課題をいっしょに乗り越えていけないか」
　深刻な過疎化　×　SDG17（パートナーシップ）　→　地域と野菜作り
　　お互いの得意分野でつながる
　　地域の方の知恵　　中学生の体力・アイデア
　合言葉「地域とともに野菜をつくることで、ともに未来をつくる！」
　理念「中学生が地域とパートナーシップを結び、地域を元気にする」
　　すべての活動がこの理念に沿ったものにする　　2020 年
　畑づくりから　　子どもも教師も農業が初めて　→　地域の人たちに教えてもらう（地域の人が先生）
　　はじめからうまくは育てられなかった（日照り、台風、病気…）

「自然の力にはかなわない」
収穫前の大根をサルに食い荒らされる
自然の怖さを実感する
（農業ではあたり前のこと）

収穫した野菜で地域の方と郷土料理
　猪鍋を囲む会
「幸せな時間だった！」
地域の人と交流したこと
味のおいしさ　　達成感　　など

　生ごみの堆肥化にも挑戦中

2021年、2022年　野菜販売に挑戦
理念「中学生が地域とパートナーシップを結び、地域を活性化する」
　→　野菜販売の目的「野菜販売を通して、別子山地域とお客様をつなぐ」
　　売って儲けることが目的ではない　　自分たちの地域と地域外の人がつながる
広報・PR部…チラシを作成、配布　　インスタグラムで発信
野菜管理部…収穫、出荷　　作業計画で改善・実行
新居浜市の観光施設「マイントピア別子」で2日間販売　　多くの方が来場された　　完売
　→　多くのお客さんとつながることができた！
　　自分たちがアクションを起こせば、社会に影響を与えられる！

「ふるさと別子夏祭り」の復活
生徒の発案によって12年ぶりに地域の夏まつりが復活
　「知りたいと思って学べば学ぶほど、別子山地域の魅力に気づける」
夏祭りで踊る盆踊りを地域の人に教えてもらう
企画立案、運営は生徒がすべてやる
　当日は雨にもかかわらず、地元住民・保護者・卒業生など110人が来場
自分たちのやりたかった「地域をつなげる活動」ができて満足
　→　「一度復活して終わりではなく、ぜひ後輩たちがつないでいってほしい」
生徒自身が、自分の家族と地域、卒業生とつながる場をつくった
　→　持続可能な社会を創っていく上で大事なこと

これらの活動のために・・・

・生徒主体の話し合い活動
　課題解決に向けた組織づくり（広報・PR部、地域連携部、野菜管理部）
　適材適所で強みを生かす　　意思決定のスピードアップ
　多様な考えを認め合いながら、対話を通して合意形成を図る（多数決では決めない）
　タブレット端末を積極的に活用
　　使うか使わないかも含め、生徒に選択させる　　手段としてICT
　　A or B　からA and B　に　　手段を「選ぶ」ではなく、手段を「つくる」に
　リーダー像を全員でつくる「別子ファームのリーダーに求められること」
　リーダー達成度チェック表
・教師の探究
　「探究学習を探究する時間」　教師も探究する！
　どこまで生徒に手をかけるのか、どこから手を離すのか
　探究学習では、教師は「学びの伴走者」という役割
　　コーチングとファシリテーション
　　自分がとるべき行動を自己決定させるよう促す

「別子ファーム」から学んだこと（１月の生徒記述より）

○**社会の大人と関わること**で得られる情報やスキルが実用的でワクワクした。（社会との接点）

○思い切って**行動**すれば、**つながり**が広がり、**未来が変わる**のだとわかった。（行動を起こす）

○それぞれが**長所を生かして協働**しているときは、**みんなが生き生き**としている。（多様性と包摂）

○別子山地域と**つながる喜び**を感じて、今度は**自分の地域行事にも参加**し、地域を盛り上げたい。（地域社会への参画・当事者意識）

○大人からの優しさを感じたことで、知らない人とも**コミュニケーションが取れるようになった**。（自己の変容）

【意見交流から】

○教師の「探究を探究する」活動は、具体的にどのような内容なのか？

→　前回の授業の振り返り、次時にどうするか（さらにその先の見通し）
　　教師もそれぞれ考え方が違う中で、どこをどう共通理解して授業に臨むか

○新居浜市は別子中学校のように、学区外の子どもを呼び込んでいこうという戦略なのか？

→　学校が地域を元気にする、そのために学校を存続させる　　その方策のひとつ

○地域の巻き込み方はとても参考になる

○寮生活をしている分、お互いの絆も深く、地域への愛着も深いのだと感じた

○ESD カレンダーは今後どのようになっていくのか

→　新居浜市の研修会では付箋を貼っていったが、学校で話してロイロノートでやってみた
　　その方がとてもやりやすかった　　今後、小学校との関連で作成できればと考えている

○来年、子どもが全く違うことをやりたいと言ってきたらどうするか？

→　そういう話が出てきたらうれしい。教師がやっていいとか悪いとか言う立場でもない。
それが自分たちだけでなく、地域のため、社会のためになっているのであればチャレンジ！
それによって野菜作りや夏祭りがなくなったとしても、それが出てきたのは自分たちがやってきた土台があってのことだと思うので、すべてが台無しだとは思わない。
探究学習というのはそういうものだと思う。

〇地域の人たちと共に活動する学びは、真に持続可能な社会づくりへの大きな一歩である。

→　自己肯定感、自己有用感がぐっと伸びた感じがする。

〇ESD カレンダーは社会に開かれた教育課程を示すもので大事だと思うが、実際にそれを実践している学校は多くないと思う。別子中学校がこれを見える化し、地域とともに学びを進めているこのような実践が増えてくると、もっと面白くなってくると思う。

〇生徒の「自分たちが動けば社会が変わる」という言葉に、ESD の真髄があるのではと感じた。そうさせたのは、先生たちの「探究学習を探究する」営みや、「学びの伴走者」としてのスタンスではないだろうか。何よりも、そうしている先生たちがいちばん楽しんでいるようにも感じた。それが ESDだと思う。